

ICT 通信 10月号



先日仙台へ学会に行ってきました。

東日本大震災後、東北の地に足を運ぶのは初でしたが、仙台の街は思っていたよりずっと元気になっているようにみえました。

今月は学会で私が拝聴しました震災関連のトピックについておはなしさせていただきます。

ここ最近 20 年ほど、日本の死因別統計の第一位はがん（悪性新生物）、第二位は心疾患、第三位は脳血管疾患が占めていました。しかし 2011 年、脳血管疾患を抜いて肺炎が第三位となり、85 歳以上では死因の第一～二位を占めるようになってきています。

これはわが国の超高齢化社会を反映したものであり、今後さらに増加して第二位の心疾患を抜く可能性も考えられています。

2011 年の東日本大震災直後、被災地で肺炎が急増しました。

地震発生から 2～3 週間後をピークに、仮設住宅や避難所で普段の 5 倍以上発生し、多くの報道番組で薬の効かない菌が発生したのではないかと、新種の菌によるものではないかと、といった間違っただ情報が流れました。

実際は通常の肺炎で多くみられる菌が大多数で、20 年近く前の阪神淡路大震災の直後にも同じように肺炎の大発生が報告されています。

震災直後には病院が使えなくなり、もちろん抗菌薬も使えません。

このような状況の中、インフルエンザが大流行しなかったのは、インフルエンザワクチンの接種が普及していたからだといわれています。

今後は肺炎球菌ワクチンによる肺炎予防の重要性がさらに見直されていくことでしょう。

備えあれば憂いなし、ですね。

朝晩だいぶ冷え込むようになってきました。体調を崩しやすい時期ですのでご注意ください。



担当：薬剤科